

平成 22 年度 学校 自己 評価 表 (2)

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の能力と個性の伸張をはかりながら、基礎学力の育成と基本的生活習慣の確立に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の 重点目標	1 基礎的な学力の保障と進路実現 2 基本的生活習慣の確立 3 地域貢献活動の推進 4 国際交流活動および国際理解教育の充実
-------------------	---	--------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 (9月)				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
3 地域貢献活動の推進	生徒会活動	○部活動を通じて規範意識や社会を生き抜く力を育成する。 ○部活動を通じて、地域へ貢献する。	○平成22年4月現在、部活動の加入率は約92.7%で、多くの生徒が熱心に活動している。 ○地域に向いて、自主的な活動を行ったり、ボランティア活動に関わる部活動が増えている。	○部活動の加入率を維持する。 ○部活動をより活性化させる。 ○活動を定着させ、様々な活動に参加する生徒を増やす。	○生徒部掲示板等を利用して、生徒会行事等の情報を積極的に流す。 ○部活動を通して基本的生活習慣の確立を目指す。 ○部活充実費等により施設設備の充実を図る。 ○ホームページ・学校だより・生徒部掲示板を利用して、各部の活動を紹介する。	○執行部を中心とした生徒会活動が活性化し、学校祭を成功裏に終わらせることができた。 ○カギボックスの整備により、部室管理や体育館使用のルールを守るようになった。 ○トレーニングルームの遮光、放送部のパソコンを整備することができた。 ○ホームページでの情報発信を行うことができています。	B	○部長会を行うことで、部長を中心に各部の規範意識を高めさせる。 ○執行部の組織力を高め、生徒が自ら考え行動する力を身につけさせる。
	環 境	○PTA活動と生徒会活動をタイアップさせて地域美化をすすめる。 ○学校行事を通じて、環境保全に対する意識を高める。	○PTAと生徒会が一体となって通学路清掃等の清掃活動を行い、地域へ貢献している。 ○TEASの取り組みが定着し、環境に対する意識が変わってきた。	○生徒の地元への愛着が深まるような活動を組織し、参加人数を増やす。 ○環境委員などの研修を通じて、生徒の中に環境リーダーを育成する。 ○前年度電力使用量に対して5%削減、前年度上水道使用量に対して5%削減、前年度ゴミ廃棄量に対して、5%削減を目指す。	○7月はPTA・生徒会が合同でコスモロードの整備を行い、10月は全校生徒で整備する。 ○米子市の一斉清掃日と連動させるなど、引き続き地区自治体活動と連携して取り組む。 ○環境委員などに対して、各種研修の機会を設ける。 ○使用していない教室の消灯など、学校が一体となって省エネルギー活動に取り組む。	○7月にはPTAと生徒会・クラブ有志が一体となって通学路清掃を実施した。 ○鳥取環境大学などでTEASに関する研修を積んだ。環境委員が古紙回収ボックス及びコンポストを作成した。 ○8月末現在、前年度比で電力使用量は10.0%減、水道使用量は10.0%増、ゴミ廃棄量は0.2%増であった。受水槽・高架水槽の水替え。体育館・武道館・記念館の改修工事が重なり業者の水道使用も影響したと思われる。	A	○通学路整備に参加する保護者・生徒の数を増やす取り組みを引き続き行う。 ○今年度は10月1日に米子市の一斉清掃日と連動させて全校生徒による通学路清掃を行う予定。 ○環境委員などに対して引き続き研修の機会を与える。 ○引き続き放課後、環境委員の当番制による消灯確認をする。
	人 権	○人権教育全体計画に則り、学校生活全体を通じて人権感覚をはぐくむ。	○人権教育LHRの事前の話し合いの時間が十分取れていない。 ○様々な課題を持った生徒がいる。	○学校生活全体を通じて人権教育的視点を活かす。 ○より多くの職員が研修を活用できるよう工夫する。	○人権教育LHRのための研修の時間を保証する。 ○様々な課題を抱える生徒へ対応できるよう職員間の連携を取り、職員研修もすすめる。	○講演会を9月に実施し、11月のLHRへ向けて事前準備をしている。 ○4月当初に全体へ特別支援教育研修会を実施した。保健部・相談部と協力して職員研修を計画している。	B	○保健部・相談部・特別支援教育部と連携して研修等実施していく。
	情 報 発 信	○重要な連絡が保護者に確実に届くようにする。	○重要な配布物はメールサービスにて、配布した旨を保護者に連絡している。	○メールサービスへの2年次生の登録率の低下を防ぐ。	○メールサービスの年度移行の際に、現在の登録者を削除せずに、次学年への登録変更を促す。	○保護者へ重要な配布物や学校行事の連絡を行った。休校の可能性のある気象状況への対応準備も万全だった。	B	○メールサービスでの保護者への連絡をより多様に行う。
4 国際交流活動および国際理解教育の充実	○国際交流に、PTAと共に学校をあげて取り組む。	○姉妹校との交流が、新型インフルエンザ流行の影響で21年度は中断した。	○昨年度できなかった姉妹校との交流を復活させ、国際交流の機会とそれに参画する生徒の数を増やす。	○アメリカ・韓国の姉妹校との交流を再開するため連携を密にする。	○今年度実施した交流事業 5月 7月かSTAから交流のため来日。 7月 釜山デザイン高校へ短期留学生派遣。 7月 PTAによる釜山デザイン高校との交流	B	○今後の予定 10月 韓国研修旅行(2年次生) 11月 PTA・愛校会による釜山デザイン高校との交流。 1月 釜山デザイン高校生来日	

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:まだ不十分 D:目標・方策の見直し
 [80%以上] [60%以上] [40%以上] [40%未満]